

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった心身ともに健康な中学生

『生徒行動目標』 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	スローガン「みんなで学び合い、高め合っていく十二中生！」～対話や協働を通じて、ポジティブな行動を目指そう～ ○基礎学力の定着と向上を目指した「分かる授業・魅力ある授業」を実践する学校 ○自己肯定感を高め、社会に参画する力を育成する学校 ○豊かな心と健やかな体を育成する学校 ○学校情報を発信し、保護者・地域の人々と協働しながら教育を推進していく学校
○児童・生徒像	○学ぶ意欲と向上心を持ち、生涯にわたって逆境に負けず、前向きに生きようとする生徒 ○自己肯定感を高め、地域・社会に貢献できる力をもつ生徒 ○思いやりの心、命を大切にする心など豊かな心と健やかな体をもつ生徒
○教師像	○「分かる授業・魅力ある授業」を目指して研修に努め、授業改善を図っていく教師 ○生徒に「考え、学び合い、話し合い、発表する」活動を通して、主体性を育ていく教師 ○生徒一人一人の個性や多様性を把握し、豊かな心と体を育んでいく教師 ○「地域にある学校」を意識し、地域や保護者と連携しながら生徒の社会的自立に必要な力を育ていく教師 ○教育公務員として使命と責任を自覚して、情熱をもって職務に努める教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校〉

現状：教師・生徒の信頼関係を築きながら、きめ細かく丁寧な指導を行っており、落ち着いた環境である。
 学校行事や学年行事、生徒会・委員会活動、ボランティア活動には、生徒が積極的に取り組んでいる。

成果：ICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業研究・授業改善に取り組んでいる。
 各種コンテストに向けた朝学習での取り組みや単元・小テストを通して基礎学力の向上と達成感を図っている。
 思いやりや規範意識、母校を大切にする心、集会での「聴く姿勢」が高い。

特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒への支援策について、外部機関と連携しながら組織的に対応することができている。

課題：①基礎学力の確実な定着と向上
 ②ICTを効果的に活用し、生徒が主体的に「考え、学び合い、話し合い、発表する」授業の実践
 ③自己肯定感を高め、主体的に行動できる生徒の育成
 ③特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒への対応（SSRとの連携）

〈生徒〉

現状：明るく素直で、学校行事や生徒会・委員会活動、美化活動、ボランティア活動によく取り組んでいる。全体として、授業に臨む姿勢もよい。

「今の学級をよりよい学級にしたいと思う」「学級みんなはお互いに協力し助け合っていた」の回答が9割を超える一方で、「自ら行動しよう」「授業中挙手や発言を積極的にした」の回答は5割弱と低い。考え、表現する力は少しずつついてきているが、自信がない。

成果：「十二中でよかった」という生徒が81%。全体として落ち着いた授業が展開でき、生徒間のトラブルも減少している。

- 課題：①学習の必要性を認識して、基礎学力の定着・向上に努める
 ②生徒自らが考え、学び合い、ポジティブに行動する力の育成
 ③粘り強く取り組み、困難を乗り越える力の育成

〈教師〉

現状：若手教師が2/3以上で活気はあるが、経験不足の面がある。生徒・保護者に寄り添って指導している姿が多く見られる。

成果：ICTの活用、校内研究授業、年次成果発表授業、小中連携研究授業等に取り組み、授業改善の意識が高まっている。

大仙市派遣教員還元授業、教師道場教員道徳授業により生徒主体の授業改善意識が高まっている。

- 課題：①基礎学力の定着と向上 下位層の底上げ
 ②ICTや学校図書館を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善
 ③キャリア教育の視点、SWPBSの視点を重視した教育活動の展開
 ④SSR運営に対して、学校全体の共通理解と組織的対応

〈保護者・地域〉

現状：保護者（PTA・オヤジの会）や開かれた学校づくり協議会委員、地域の方々は創立以来本校に愛着があり、協力・支援体制が強い。運動会でのテント貸し出しや校内地域清掃での焼きそば提供など全面的な協力体制がある。

成果：PTA、開かれた学校づくり協議会による朝の挨拶運動は生徒の週番活動とともに実施できた。また、開かれた学校づくり協議会を定期的に開催し、教員との意見交換会や保護者参加の講演会も実施できた。12月には3年生面接練習をサポートしていただいた。

- 課題：①学校、PTA、開かれた学校づくり協議会との連携を図りながら、地域に根ざした学校をつくる。
 ②保護者の皆様に、学校公開や学校の様子を随時発信し、ご理解とご協力を頂けるような教育活動を展開していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と社会的自立心の確立	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上と信頼される学校作り	○	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
生徒の学習意欲を高めるとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、学力向上を図る		年度末到達度確認テスト正答率 51% 令和7年度区調査通過率 58%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全学年 全教科	年間を 通して	<p>【指導体制】研究推進委員会で企画運営【取り組みのねらい・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上の研究授業時にICT機器を効果的に活用し、生徒主体の授業を公開する。ICT研究推進委員会と連携し、モデル授業を実施する。 ・校内研修会を実施する。管理職・教員同士の授業観察年3回実施する。「めあて」「振り返り」を明確にした授業展開の統一化を図る。 ・学校図書館を年1回は教科や総合学習で活用する。 	<p>一人1回研究授業、ICT研究推進委員のモデル授業の実施回数</p> <p>授業観察シート</p> <p>授業で学校図書館を活用した回数 「調べる学習コンクール」 応募数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が1回以上ICT機器を効果的に活用し、生徒主体の研究授業を実施する。 ・ICT研究推進委員のモデル授業の実施(5教科代表) ・授業観察シート提出率 90% ・授業で学校図書館を活用した回数 10回以上 「調べる学習コンクール」 応募数 30 	自己評価の際に記入		

2 新規	朝学習(10分)	全学年 5教科	各教科 2週間 を1ク ールと して実 施	<p>【指導体制】教科担任、学年所属教員【取り組みのねらい・目的】・区学力調査の分析より各教科定着が低い内容を演習し、最終日に「確認テスト」「振り返り」を実施する。 ・基準をクリアできない生徒に対して補充教室(JUT)を実施する。</p> <p>【使用教材】プリント教材・AIドリル</p>	5教科確認テスト(各3回)による合格率	<p>5教科確認テストによる合格率 80%</p> <p>JUT対象生徒のクリア賞 80%</p> <p>定期考査、単元テスト、小テストで基礎・基本問題の習得</p>			
3 継続	放課後補充教室(JUT)	全学年 5教科 CD層対 象	放課後 20分 各教科 2週間 を1ク ールと して実 施	<p>【指導体制】教科担任、学年所属教員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】・各教科内容の定着が不十分な生徒に対して指導する。 ・各教科「確認テスト」を実施し、基準をクリアできない生徒に対して補充を行い、再度確認テストを行う。(クリア賞)</p> <p>【使用教材】プリント教材・AIドリル</p>	<p>5教科確認テスト(各3回)による合格率</p> <p>JUTクリア賞 80%</p>	<p>JUT対象生徒 クリア賞 80%</p> <p>5教科確認テスト合格率 30%</p> <p>定期考査、単元テスト、小テストで基礎・基本問題の習得</p>			
4 継続	家庭学習	全生徒 全教科	毎日 (土、日 も含む)	<p>【指導体制】学年所属職員【取り組みのねらい・目的】各教科よりノート・AIドリルを活用した家庭学習の方法を指導する。</p> <p>【使用教材】教科書・プリント・AIドリル</p>	AIドリル活用状況を学年体制で確認する。	活用率の低い生徒に対しては、各担任を中心に個別指導を行う。			

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成と社会的自立心の確立			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒自らよりよい学校づくりに参画し、「学校生活が楽しく安心できる学校」「他人を尊重し、いじめのない学校」をつくる		アンケートで「十二中の生徒でよかったと思う」と90%以上の生徒が回答する。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の涵養	<ul style="list-style-type: none"> WebQUの学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の設問No.8、16、21、22、23の肯定的な回答がいずれも70%以上 ポジティブな行動マトリクスの「自ら行動しよう」70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育年間指導計画と夢デザインシートをリンクさせた計画・振り返りを実施。 SWPBSのポジティブな行動マトリクスを各教室に掲示し、生徒に意識化させる。 学校スローガンを掲げ、講話や学年集会で意識化させる。 	自己評価の際に記入		
居心地のよい学級作り 人権への配慮と豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> WebQUにおける侵害行為認知群、各学年とも15%以下 学級不満足群20%以下 学級満足度50%以上 WebQUにおける『学習意欲』に関する設問の70%以上 生徒アンケート「学級での居心地がよいと感じている」85%以上 「他人を尊重し、いじめのない学校生活を送っている」と、生徒の回答80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> WebQU やいじめアンケートでのいじめの早期発見に努め、「いじめ防止対策委員会」を中心に組織的に対応する。 学級活動を通して、生徒が互いに学び合う関係を構築し、どの生徒も意欲的に学習に取り組めるようにする。 生徒会活動や学級活動を通して、生徒自らの手で安心・安全な環境をつくる態度を育てる。 道徳の授業、生命の安全教育、校長講話など「心の教育」「人権について考える教育」を全教育活動で推進する。 			

社会的自立心の確立	「挨拶する」「ルール・マナーを守る」「生徒会や委員会・係活動、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる」と生徒の80%以上が回答。	日常的なルール・マナーの凡事徹底。「校則について」「委員会活動」など生徒会を中心に生徒が主体的に考え、企画し、運営できる生徒を育成する。			
-----------	---	--	--	--	--

重点的な取組事項－3		教師の指導力向上と信頼される学校作り				
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
	教師の指導力向上と信頼される学校作り	保護者アンケートで、80%以上が「子どもを十二中に入れてよかったと思う」と答える。	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み						
	項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	教師の指導力の向上	「教え方や学び方、教材の工夫をしている」「分かりやすい授業をしている」「生徒の悩みや不安などに耳を傾けている」「生徒の将来を考えて指導している」と80%以上の生徒が答える。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会を実施し、「ICTの効果的な活用」「考え、学び合い、話し合い、発表する」授業実践をテーマに研修し、授業力向上を目指す。授業観察を年3回行う。 ・二者面談、三者面談を効果的に実施する。 	自己評価の際に記入		
	保護者、開かれた学校づくり協議会と協働した信頼される学校作り	「生徒は進んで地域の行事やボランティア活動に参加している」、「学校からの情報はわかりやすい」「毎回読んでいる」と保護者の80%が回答する。	<ul style="list-style-type: none"> PTA・開かれた学校づくり協議会と定期的に会議をもち、学校と保護者・地域との連携を図る。 各種たより・H&Sで定期的に情報を発信する。保護者会、学校公開、三者面談を計画的に実施する。 			